

あにわにわ 通信

第13号

「あにわにわ」とは、ニュージーランドの
マオリ語で虹を意味しています。

2011.4.20

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション発行

代表理事：大日向 雅美・新澤 誠治

子育てひろば「あい・ぽーと」

住所：107-0062 東京都港区南青山 2-25-1
電話：03-5786-3250 FAX:03-5786-3256
E-mail: info@ai-port.jp
URL: <http://www.ai-port.jp>

全国版子育て・家族支援者養成講座事務局

住所：〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509
電話：03-6657-8539 FAX:03-3499-8539
E-mail: station@ai-port.jp
URL: <http://www.ai-port.jp>

自治体職員研修第IV期を終えて

法人代表理事・恵泉女学園大学大学院教授

大日向雅美

三月十一日に発生した東日本大地震からひと月余り。時の経過と共に明らかとなる被害の甚大さに言葉を失う思いです。被災地の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

今回の地震では浦安市が液状化による大きな被害に見舞われています。浦安市の皆様のご苦難を思いますと、胸が痛みます。皆様の心身のお疲れが少しでも和らぎますことを、そして復興の一日も早いことをお祈りしております。

さて本号は昨年度実施した第IV期自治体職員研修についてのご報告を主としております。本研修は、住友生命「未来を築く子育てプロジェクト」助成事業として二〇〇七年度に第一回を開催して以来、毎回、全国各地の子育て支援行政担当者や子育て・家族支援者の方々を対象として、その時々のホットな話題をとりあげ、地域の実態に即した子育て支援

のあり方について議論を重ねてまいりました。第IV期は目下、国で行われている子ども・子育て新システムの議論を視野におきつつ、テーマを「子どもの発達環境を地域でいかに守るか！」改めて「子どものため」の議論を」といたしました。新システムの理念は、

子どもの育ちや親の子育てを社会の皆で見守り、支えることにあります。子育ての第一義的責任は親や家庭にあるとされてきた従来の考え方からの画期的な理念展開と言えるものですが、これこそ今、未曾有の困難に直面している私たちが、子どもとその家族を守るために目指すべき道標と言えるのではないかと思っています。

復興への支援は息の長い取組となります。日頃の子育て家族支援を大切にしつつ、そのお力を被災地の方々への支援にもつなげていただきますことを願っております。



自治体職員研修の講師を務めて

厚生労働省少子化対策企画室長

黒田秀郎

一月二十一日(金)の講座において、「子ども・子育て新システム」の検討状況を説明させていただきました。「子ども・子育て新システム」は、すべての子どもに良質な成育環境を保障し、子ども・子育てを社会全体で支援する一元的な制度として、検討が進められています。

給付設計については、質の高い幼児教育と保育を提供する「こども園(仮称)」の創設をはじめ、「多様な保育」、「放課後児童クラブ」、全ての子ども子育て、家庭を対象とする「一時預かり」や「地域子育て支援事業」など、切れ目のないサービス・給付を位置づけます。

制度の実施主体は、基礎自治体である市町村です。市町村には、①新システムの事業計画を策定し、ニーズ調査によって把握したサービス・給付の需要見込みと、必要な基盤整備を盛り込むこと、②利用に結びつかない方が生じないような個々の利用の場面の利用支援を行うこと、などを担うべく方針です。

国と都道府県は、市町村を重層的にしっかりと支援します。国は制度設計と財源の確保など、制度の根幹を担い、市町村に「包括交付金」として財政支援を行います。都道府県は、専門性を有する広域自治体として、市町村間の広域調整や市町村支援を行うことが現在議論されています。

昨春秋以降、内閣府に設けられたワーキングチームにおいて、自治体関係者、労使、幼稚園・保育関係者など広範な方々の参画を得て、議論を進めています。制度設計に際しては、制度の実施主体であり、実務に精通した市町村関係者の方々の「意見が欠かせません。当日も、「出席の方々から「質問」「意見をいただきました。議今後とも、幅広く「意見をお聞きしながら、議論を進めていきたいと考えています。」

大阪市立大学教授 山縣文治

社会的養護施策は、長い間、都道府県の施策とされ、市町村の主體的な業務としては位置づけられていませんでした。

このような流れが大きく変化する契機となったのは、社会福祉全般でいうと、利用者の意向を尊重した制度構築の必要性の認識とその制度化だと思えます。その背後には、ノーマライゼーション思想に基づき、地域福祉・在宅福祉の重要性の認識もあつたでしょう。評価は別にして、介護保険や障害者自立支援制度は、その典型だと思えます。

もう一つは、子ども虐待に代表される、機動性や即応性が求めらる福祉問題がより大きな課題となったことと考えられます。社会的養護問題に限らず、重要なのは、発生予防と早期発見・早期対応です。都道府県の業務として位置づけられていたのでは、機動性や即応性に課題が残ります。市町村の相談窓口の強化、子育て短期支援事業のような社会的養護施策の色彩の強い施策の市町村事業化、さらにはニーズとサービスの有効な関係を構築するための要保護児童対策地域協議会の設置などは、これを少しでも克服するものとして提案されてきたのだと考えられます。

従来より保育や地域子育て支援については、市町村の業務とされてきました。地域子育て支援は、比較的新しい分野であり、事業化に際して、市町村に位置づけられたという方がより正確かも知れません。社会的養護施策は、県レベルから市町村に移行しつつあるといいますが、もう一方で、保育や地域子育て支援の現場において、社会的養護問題が日々感じられるというのが実態だと思えます。すなわち、相互の距離感が近づきつつあるということです。市町村では、これらのことを意識した子ども家庭施策の展開が求められます。

シンポジウム

コーディネーター役の汐見理事の進行で、3人の方からの情報提供でシンポジウムはスタートしました。

まず内閣府の岡本氏が、「子ども・子育て新システム」について説明されました。“子ども・子育てを社会全体でサポートする”ことが、新システムの大きな柱であることを、ご自身のフランスでの勤務経験も交えながら説明されました。次に、奥山氏は、子育てひろばの運営を通して見えてくる課題として、支援される側から支援する側へ循環する社会の重要性とそのためのシステム作りなど、新しいシステム作りに当事者が入っていくことの重要性を提案されました。また菅原氏は、“保育・養育の質”という視点での情報提供に基づいて、家庭内ではもちろん、社会的な保育・養育・幼児教育の“質”も子どもの発達に大きな影響を与えることを、様々な国際的研究結果のデータを示しながら説明されました。

以上のシンポジストの提言を基に、議論が深められ、「困った時に助けてもらった体験や、コミュニティ感覚を育てていくプログラム内容が必要」「子育てひろばでは、他の子どもの面倒もみることで、人と関わる喜びを覚えていける」「子どもの問題だけでなく、高齢者の問題も含めて、家族問題・家族施策として考える」など貴重な意見交換が行われました。

そして、最後に、「社会づくりがテーマでした。社会をどう充実させていくか、みんなが支えるという雰囲気はどう作っていくかが大きな課題である」と、汐見理事にまとめて頂き、シンポジウムは終了となりました。



住友生命創業100周年記念事業『未来を築く子育てプロジェクト』助成事業

NPO法人あい・ぼーとステーション主催

全国自治体研修

(第Ⅳ期)

子どもの発達環境を地域でいかに守るか！

～改めて「子どものために」の議論を～

後援:内閣府・厚生労働省・東京都・港区

プログラム

社会の皆で子どもの育ちを見守る

全体会 開会挨拶 本法人代表理事・恵泉女学園大学大学院教授 大日向雅美
住友生命保険相互会社調査広報部上席部長代理 澤春生

シンポジウム「子育ての第一義的責任は親・家族」を問い直す

シンポジスト 本法人理事・白梅学園大学学長 汐見稔幸
内閣府共生社会政策統括官付少子化対策担当参事官補佐 岡本利久
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長・NPO法人びーのびーの理事長
奥山千鶴子

お茶の水女子大学大学院教授 菅原ますみ

分科会 A子どものために<地域の子育てひろば>でできること 奥山千鶴子

B<1%の子どもを排除しない支援とは～障害・養護の視点から～

同志社大学赤ちゃん学研究センター 小西行郎

C<切れ目のない支援とは～学童保育の視点から～>

児童健全育成推進財団企画調査室室長 野中賢治・バオバブ保育園ちいさな家園長 遠山洋一

D子どものために<地域の人材育成の課題> 大日向雅美&汐見稔幸

全体会 一日のまとめと質疑応答 大日向雅美&汐見稔幸

全体会

講座最後の全体会は、大日向代表理事、汐見理事を中心に、分科会でオピニオンリーダーを務められた4人の先生方も壇上にあがられ、4つの分科会をつなぎながら、会場からの質疑応答も交えて、活発な議論がなされました。

国が施策として謳っている「子ども・子育て新システム」づくりをバックに、今回は4分科会を組みましたが、汐見理事から、「新システム」とは「新しい社会」づくりであり、この「社会」という言葉、英語のsocietyは、語源をラテン語のsocietasとし、支え合う集団を意味し、「社会を作る」とは、「お互いわかり合う」ことにあるという説明がありました。キーワードであるこの「理解」を前提に、各々のオピニオンリーダーからの4分科会のまとめ、更に分科会で熱い議論を交わした参加者からの会場での質問を通して、「子ども・子育て新システム」づくりとは、「子ども自身の持つ意思」を理解する、尊重する社会（英語のunderstandは、under一下からstand支える）を目指すことにあるということを確認しました。最後に大日向代表理事が、子育てし難い現代の危機を「分岐点」と捉え、「新システムを作ること」で社会をより良くしていきたい、その実現のためには、市民と行政が対等の立場でコラボレーションしていくことが不可欠であり、市民として出来ることは、率直にそして根気強く「市民の声」を届け続ける、言い続けることであるとまとめられて、全体会は幕を閉じました。



分科会 A

子どものために

<地域の子育てひろば>でできること

分科会Aでは、オピニオンリーダーとして奥山千鶴子氏にお話ししていただきました。奥山氏ご自身も子育て中の親として、おやこの広場「びーのびーの」と「どろっぷ」を立ち上げた経験をもとに、子育てひろば運営の実際をお話しいただきました。

開設にあたっては地域の方の協力があり、土地選びから建設までよりよい形で行うことができたというお話や、地域の学生ボランティアが活躍しているエピソードからも、子どもは「地域」で育てていく、という理念をより深く理解することができました。

実際のひろばでのプログラムについてもご紹介いただき、利用者の気づきや成長を促す講座、スタッフと利用者が気軽に意見交換できるような時間、父親中心の活動など、多種多様できめ細やかな内容は、大変参考になりました。

ひろばとともに利用者も育ち、支援される側からする立場へとシフトしていくことで支えあいの循環が生まれていく。また、学生ボランティアなどの世代間交流を通じて、これから子どもを産み育てる世代へのメッセージを発信していくことも、これからのひろばの担う役割であると実感しました。



分科会 B

1%の子どもを排除しない支援とは

～障害・養護の視点から～

分科会Bでは、オピニオンリーダーとして小西行郎理事にお話ししていただきました。今、子どもたちは生きにくさを感じていたり、「困った子がいる、皆と一緒に行動出来ない子がいる」と言われたりしています。しかし、子どもの側からみた場合、本当にそうなのか、大人が管理しようとするからなのではないかとの問題提起をされ、巡回相談しているクラスの取り組みから集団の中で障害のある子は守られ、周りの子どもたちも優しくなっていくところを見てこられた経験について話をされました。お互いが助け合っていける環境をつくるのが大人の課題であること、また、施策を考えるとき、就学から就労まで一貫した支援が望まれ、それぞれステップごとに情報を伝えていくためつなぐ役は必要であり、そして、地域全体を生きやすい地域に変えていくために地域の人材を活かし、皆の協力を得ていくことが大切だ、というお話でした。お話をうかがい、私たち支援者も、その一環を担っていきたいと思いました。



分科会 C

切れ目のない支援とは ～学童保育の視点から～

分科会Cでは、オピニオンリーダーとして野中賢治氏と遠山洋一理事にお話ししていただきました。参加者全員にご発言いただき、活発な意見交換の場となりました。

野中氏からは、「子ども・子育て新システム検討会議」の議論に基づいて、今後目指していくべき“切れ目のない支援”のあり方について、ビジョンと課題をご提示いただきました。

遠山理事からは子どもの立場に立って家庭生活、学校生活、地域生活の切れ目をなくすことが大切であり、子どもは地域で育つ、支えるという意味で、その拠点としての学童保育が果たす役割は大きいとお話をいただきました。

参加者から現場での苦悩や課題について率直にお話しいただいたことを受け、野中氏は、本当に切れ目のない支援を目指す時、現場の、一人一人の子どもの“個”を捉える視点から、課題を紡ぎ出し、発信して施策に反映させていくことが重要だと激励の言葉で締め括っていただきました。



分科会 D

子どものために<地域の人材育成の課題>

分科会Dでは、今、必要とされている子育て支援について、大日向代表理事と汐見理事が会場の皆さんと質疑応答を交えて進行されました。冒頭お二方から、子育て支援は、子どもだけでなくその親も一緒に支援している親育てでもあり、初めから立派な親はいないことに留意し、地域全体で子育てを支援することが大切であることが、確認されました。次いで、支援を受ける方々のニーズを汲み、心理的な面でも助けとなるにはどのようにしたら良いのかという点をグループに分けて話し合いました。

グループでは参加者皆さんの今までの活動を報告し合い、子どものためにできることは何かが話し合われました。発表の時に両先生からのコメントを受けて、今後、さらに意欲的に活動しようとする思いを皆さんが強められていて、その姿がとても心強く、温かく感じられる場となりました。



【バックアップ研修開講予定】

〈港区〉

五月九日(月)【三級・二級】

十三時三十分から十五時

内容 事例検討会

講師 大日向雅美(本法人代表理事)

子育てひろば「あい・ぽーと」施設長)

会場 子育てひろば「あい・ぽーと」

六月六日(月)十時から十一時三十分

内容 わらべうたを通した赤ちゃんとの

触れ合い遊び

講師 平尾時栄(助産師)

会場 子育てひろば「あい・ぽーと」

〈浦安市〉

一般・家庭的保育者

五月十三日(金)十一時から十二時三十分

十三時三十分から十五時

内容 活動状況報告及び

課題解決に向けた助言

講師 大日向雅美(本法人代表理事)

子育てひろば「あい・ぽーと」施設長)

会場 浦安文化会館(予定)

六月十五日(水)

内容 活動状況報告及び

課題解決に向けた助言

講師 福川須美

会場 浦安文化会館(予定)

〈千代田区〉

五月九日(月)十時四十五分から十二時十五分

内容 活動状況報告及び

課題解決に向けた助言

講師 大日向雅美(本法人代表理事)

子育てひろば「あい・ぽーと」施設長)

会場 区役所四〇四会議室

六月

内容 児童館から

講師 一番長児童館館長及び先生

会場 未定

〈高浜市〉

五月二十三日(月)

内容 子ども(三歳未満児)の健康管理

(※内容に関する詳細は別途お知らせします)

講師 鈴木美奈子

高浜市保健福祉グループ保健師

会場 未定

六月六日(月)①十四時から十五時

②十五時十五分から

十七時十五分

内容 ①最近の児童福祉行政

②保護者理解と対応

講師 大日向雅美(本法人代表理事)

子育てひろば「あい・ぽーと」施設長)

会場 高浜市中央公民館

※未定の箇所は、決定次第お知らせ致します。



【今年度養成講座開講予定】

〈港区〉

子育て・家族支援者養成講座(三級X期)

開講日 二〇一一年五月二十七日(金)

七月二十九日(金)まで

子育て・家族支援者養成講座(二級IX期)

開講日 二〇一一年十月十四日(金)

十二月九日(金)まで

子育て・家族支援者養成講座(三級XI期)

開講日 二〇一二年一月二十日(金)

三月二十三日(金)まで

〈浦安市〉

子育て・家族支援者養成講座(三級VI期)

開講日 二〇一一年五月十三日(金)

七月十五日(金)まで

子育て・家族支援者養成講座(二級V期)

開講日 二〇一一年九月三十日(金)

十一月十八日(金)まで

〈千代田区〉

子育て・家族支援者養成講座(三級VI期)

開講日 二〇一一年五月九日(月)

七月十一日(月)まで

子育て・家族支援者養成講座(二級IV期)

開講日 二〇一一年九月二十六日(月)

十二月十二日(月)まで

〈高浜市〉

子育て・家族支援者養成講座

開講日 二〇一一年九月十四日(水)

十二月十六日(金)まで

【東北関東大震災 救援チャリティーバザー】

救援チャリティーバザー

くじけないで子どもたち！
アートや絵本を買って支援しよう

NGO国際子ども教育基金による、被災地の子どもを支援するチャリティーバザーが四月八日(金)から三日間あい・ぽーとで開催されました。

発起人は法人理事 白梅学園大学の汐見稔幸学長・法人代表理事 恵泉女学園大学大学院の大日向雅美教授。教育関係の書籍にかかわるイラストレーターや作家らが額装済みの絵画や、絵本や育児書など約五百冊を提供しました。ほかにもテディベア作家によるアーティスト・ベア、家具作家の子ども用の椅子、イラン遊牧民による絨毯「ギャツベ」、吹きガラス作家や陶芸家の器などが出展されました。各地からたくさんの方々が駆けつけて下さり、大盛況でした。収益は被災した子どもの心のケアや保育園・幼稚園の再建への支援に役立てられます。

